

# 大きく育てて帰れ

## 羽生市立村君小 サケ稚魚、利根川に放流

羽生市堤の市立村君小学校(鳥海一寿校長、児童数54人)の全校児童が27日、学校の近くを流れる利根川にサケの稚魚約200匹を放流した。

同小では生命を慈しむ心の教育の一環で、1991年から毎年、サケの稚魚を放流している。校歌の歌詞にも「サケよ大きく育ったら帰れふるさと忘れないで」とある。

同校によると、昨年12月3日に市内の協力者からサケの受精卵約300粒を提供してもらい、ふ化をさせて5年生が中心になって学校の水槽で育ててきた。また、今年1月にも行田市内の水資源機構から受精

卵約100粒の提供を受けており、こちらは稚魚を3センチほどに成長させてから、2月中に放流する予定という。

5年生の折原紗羽(さわ)さん(11)は「水槽の水替

えと餌やりをして、稚魚は3~4センチほどの大きさに育った。大きくなって(放流場所に)戻ってきてほしい」と話していた。

この日は風が時折強く吹いたが、児童たちは元気いっぱい。放流の後、利根川に向かって全校児童で「カムバック、サーモン」「大きくなって戻ってきてね」などと声を掛けていた。

(江利川義雄)



コップに入れたサケの稚魚を利根川に放流する村君小の児童たち。27日午前、羽生市堤